

ち　　ず　　み　　せ　　かい

地図で見る世界の 子どもたちのようす

あん　　ぜん　　み　　ず

安全な水を 子どもたちに！

こ　　ま　　ま　　せ　　かい

子どもが守られる世界は
環境も守られる世界

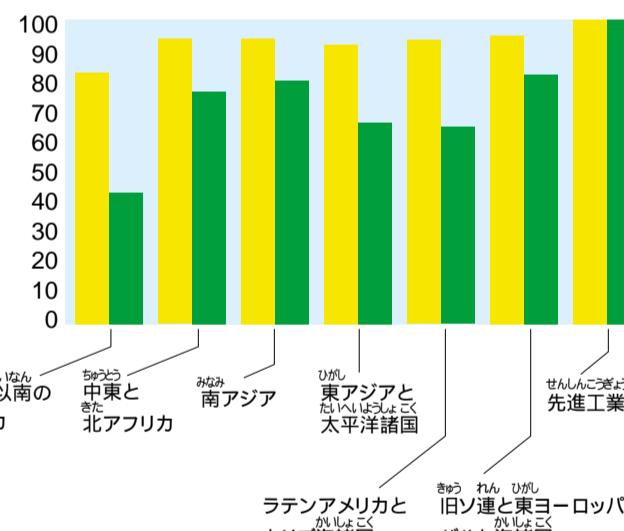
2002年8月26日から9月4日まで、南アフリカ共和国のヨハネスブルグで、国連の「持続可能な開発に関する世界サミット」(ヨハネスブルグサミット)が開かれました。10年前、ブラジルのリオデジャネイロで開かれた「地球サミット」で、各国は、環境を守り、エネルギーや資源を保全しながら続けられる開発(持続可能な開発)のために行動することを約束しました。しかし、その後、世界は、環境を守り資源を保全できるようになったのでしょうか?

今、地球の人口は60億人をこえました。過去50年の間に2.4倍に増え、今も増えづけています。世界の5人にひとりは、1日1米ドル(およそ120円)にも満たない収入しかなく、とても貧しい生活を強いられています。安全な飲み水を得られない人びとは、およそ11億人に達しています。



とし
都市と
農村

安全な水を手に
入れられる割合
(2000年)

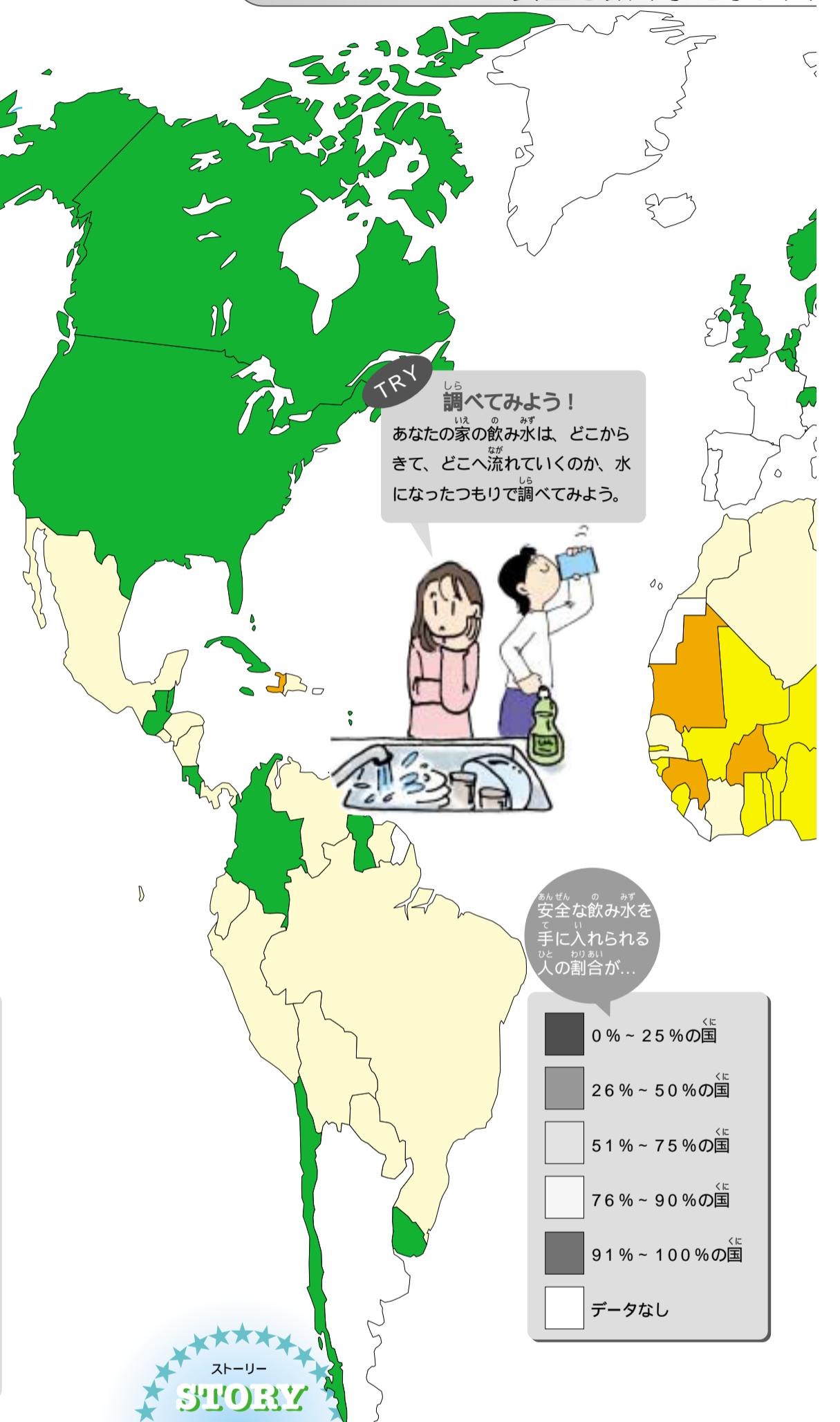


ユニセフのキャロル・ベラミー事務局長は
サミットで次のように話しました。

ほんとうに持続可能な開発を達成するためには、子どもにふさわしい世界をつくるなければなりません。安全な水やきれいなトイレを整えるといった簡単なことが、子どもの命を守るだけでなく、多くの子どもたちを学校に通わせることにもつながります。そして、しっかりと教育を受けた子どもたちは一世代でも大きな変化をもたらすことができるのです。

サミットは、全世界の国ぐにが協力して、環境を守り、貧困をなくし、持続可能な開発をすすめることを約束した実行計画書と宣言文を探して閉会しました。これから、それが実行にうつされるように、みんなではたらきかけていくことが求められています。

あんぜん　の　み　　ず　　て　　い
安全な飲み水を手に入

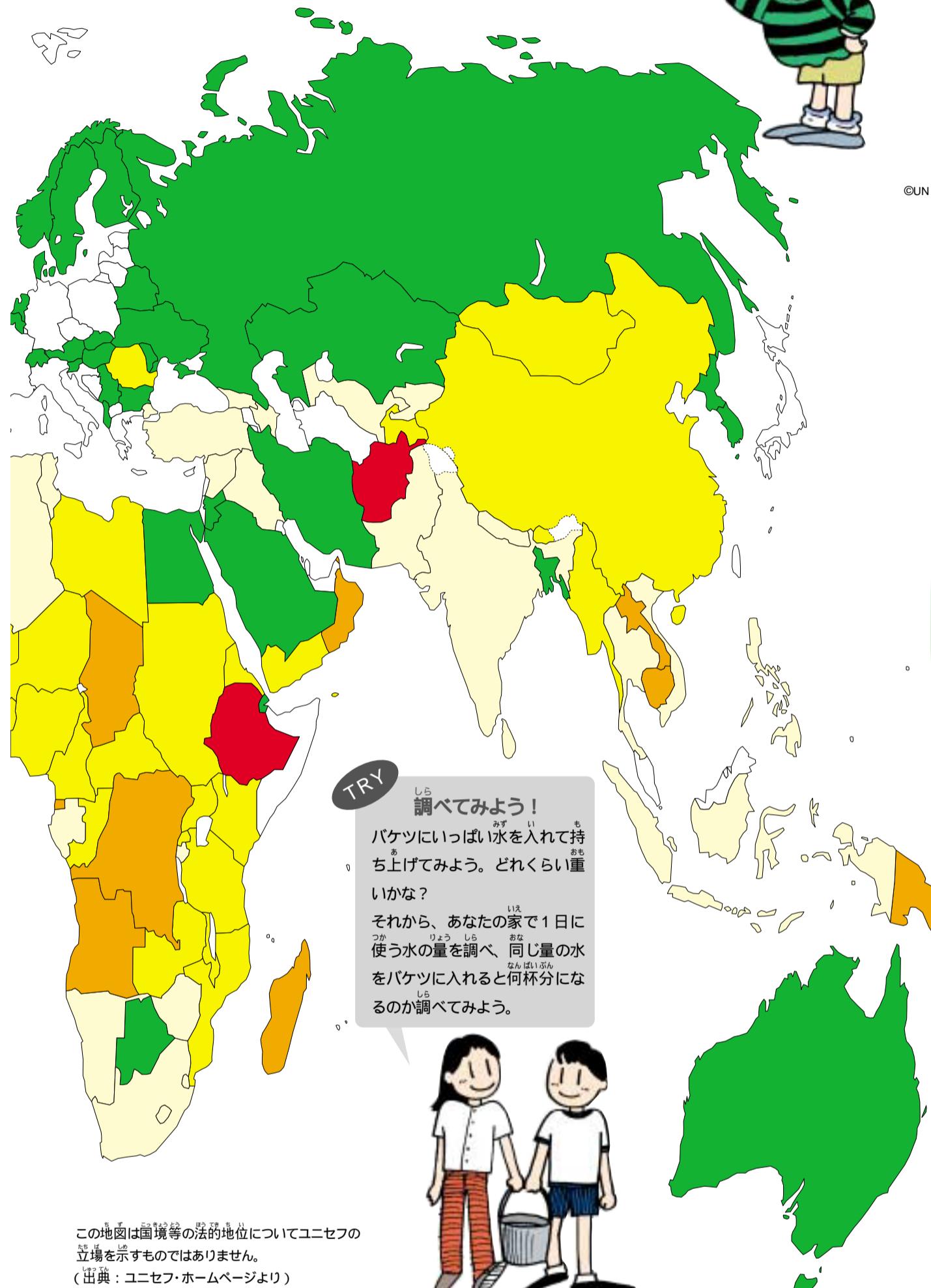


STORY
み　　ず　　き
水が来たら、
学校に行けた!



ジンバブエのビンガ地区は貧しい地域です。ここで暮らす11歳のピカイは、お母さんが病気にたがって学校をやめるほかありませんでしんも病気がちで、シュピカイはの妹をどうにか食べさせて、せねばならなかったのです。家にはトイレがなく、お母さんをくり返していました。いつも注意深く穴をほって、それましたが、家族はみんな病気がありました。

い い 入れられる人の割合 ひと わりあい



ヨハネスブルグサミットでの子どもたちのスピーチ

ヨハネスブルグサミットでは、4人の子ども代表がスピーチをおこない、子どもたちの声を伝えました。みなさんなら、どんなことをうつたえたいですか?

私たち、10年前のリオデジャネイロ会議のときはまだ赤ちゃんでした。でも、ここでうつたえたいことはそのときに話されたことばかりです。世界の子どもたちはがっかりしています。なぜなら、多くのおとながお金や富にしか興味がなく、私たちの未来に深刻な影響を与える問題のことを考えてくれないからです。あなたの子どもたちのことを考えてください。…どんな世界を彼らに望みますか?
私たちの声を聞いてください。そして、私たちすべてが幸せに生きられるような選択をしてください。

世界中の政府は

開発途上国の人々が安全な水を手に入れられるようにしてください
(二酸化炭素の排出を制限する)京都議定書に署名してください。私たちは、真夏に雪がふるんじゃないかななんて心配するのもうごめんです
一家族あたりの車の数を制限してください
すべての子どもたちが、無料で保健サービスを受けられるようにしてください
植林することなく木を切るのはやめてください
貧しい人や子どもたちを支援するためにもっとお金を使ってください

世界中のひとびとは

歩いたり、自転車を使ったり、車の相乗りをしたり、(車を使わない)交通手段をもっと使いましょう
ごみを減らし、もう一度使い、リサイクルを進めましょう
多くの政府が、環境や人びとにあまり配慮しない人たちによって簡単に動かされてしまうことを心配しています。ほかの惑星を代わりに買うなんてことはできないのです。罪を犯した人は刑務所に送られます。なぜ、環境や子どもを傷つける国ぐにを罰することがそんなにむずかしいのでしょうか?

鏡をのぞいて、こう言えますか?「子どもには未来がある、安全な水を手に入れられる、貧困や汚染された環境で生きなくてもよい。なぜなら私たちが行動するのだから」と。そんなにたくさんのことをお願いしているとは思いません。いいスピーチだったね、とほめられるより、みなさんが行動してくれることを願います。

(一部抜粋翻訳)

は貧しい人が多い
1歳の女の子シュー
にたおれたとき、
んでした。お父さ
イは、1歳と3歳
世話をしなけ
母さんはひどい
シュピカイは、い
それをうめて
き気がうつる危険

それに、井戸もないので、シュピカイは水を入れると20kgもの重さになるバケツを持って、3kmもはなれた水場まで1日に何度も往復しなければなりません。水場といつても、ただ穴をほって水がわき出しているだけのところで、おおいもされていません。重いバケツを頭にのせて、家に帰るのに40分はかかります。

この問題をどうしたらいいのかしら?と聞かれたときシュピカイはすぐさま答えました。「水よ! 水。水さえ近くにあれば、問題の半分は解決するの。それに、もしトイレがあれ

ば、お母さんは楽になると思うわ。両親や妹の世話をするのだって、とても簡単になります」

ユニセフが支援するプログラムがこの地区ではじまり、とうとう、シュピカイの家にも井戸とトイレができました。お父さんはれんがをつみ、トイレ用の穴をほりました。建設してくれた人たちには、にわとりややぎでお礼を払いました。

このできごとの後、シュピカイの毎日の仕事はずっと楽になり、数ヶ月のうちに、もう一度学校にもどることができました。